

年々増加する 岡山県の乳牛、豚、にわとり

農林省岡山統計調査事務所では、今年の8月1日現在で実施した畜産基本調査の結果から、県下の家畜飼養状況について去る10月8日次のとおり発表しました。

1、乳用牛

(1) 飼養農家数

乳用牛の本県の昭和35年8月1日の飼養農家数は、約11,600戸で34年8月の9,500戸に比較すると2,100戸、22.1%の増加となっている。

また34年8月の33年8月に対するそれは23.4%増で、全国の7.5%増、中国地方の13.9%増よりも相当大巾に伸び、全国の2.4%、中国地方の34.1%をしめ、35年8月の飼養農家戸数を10年前の25年2月の飼養農家1,977戸に比べると、約5.9倍にも達している。

この飼養農家の総農家に対する割合は6.7%となり、前年の5.5%33年8月の4.5%からは、約1%ずつ大体同じ程度の増加をみせている

34年8月の33年8月に対するそれは32.8%増で全国の13.2%増、中国地方の19.4%増からみると驚異的な増加で、全国の2.2%中国地方の35.6%をしめ35年8月の飼養頭数を10年前の25年2月の3,008頭に比べると、約6.4倍という大飛躍をみせている。飼養農家一戸当り頭数は、全国的には飼養規模の拡大傾向がみられるが、本県では大体1.7頭前後でそうした変動はみられていない。

2、豚

(1) 飼養農家数

豚の飼養農家数は全国的には33年春以降の肉豚価格の下落や、豚コレラ発生等の悪条件にもかかわらず旺盛な消費需要の伸びと諸類の養豚飼料の価格低落、更には、農家の家畜導入による経営改善意欲に支えられ、34年2月には前年の約13%増となった。しかしその後34年の春以降食肉の消費需要増による肉豚の価格の高騰等により消費が供給を上廻ったとみられ飼養農家も34年8月は33年8月に比べて全国で92.1%、中国地方では97.8%とやや減少の傾向をみせたが、岡山県では105.0%と逆に僅かながら増加した。その後この食肉高騰の好景気に支えられ、岡山県では35年8月には34年8月に比べ123.8%と急激な増加を示したが、全国的な数は未公表で判らないが相当増加したものとと思われる。

35年8月の5千200戸を25年2月に比べると2.1倍に相当している。

(2) 飼養頭数

一方豚の飼養頭数は35年8月現在で約1万6

	飼 養 農 家 数					飼 養 頭 数				
	33.8	34.8	35.8	34.8	35.8	33.8	34.8	35.8	34.8	35.8
	戸	戸	戸	%	%	頭	頭	頭	%	%
全 国	374,140	402,300	—	107.5	—	704,530	797,780	—	113.2	—
中 国	24,430	27,820	—	113.9	—	40,950	48,900	—	119.4	—
岡 山	7,700	9,500	11,600	123.4	122.1	13,100	17,400	19,200	132.8	110.3
岡 山 全 国	%	%	—	—	—	%	%	—	—	—
	2.1	2.4	—	—	—	1.9	2.2	—	—	—
岡 山 中 国	31.5	34.1	—	—	—	32.0	35.6	—	—	—

	総農家に対する飼養農家の割合			飼養農家1戸当り頭数		
	33.8	34.8	35.8	33.8	34.8	35.8
全 国	6.3	6.7	—	1.9	2.0	—
中 国	3.8	4.4	—	1.7	1.8	—
岡 山	4.5	5.5	6.7	1.7	1.8	1.7

(2) 飼養頭数

乳用牛の使用頭数は年々急激な増加を示しているが、35年8月においても19,200頭に対し1,800頭10.3%の増加を示している。また

	飼 養 農 家 数					飼 養 頭 数				
	33.8	34.8	35.8	34.8	35.8	33.8	34.8	35.8	34.8	35.8
	百戸	百戸	百戸	%	%	百頭	百頭	百頭	%	%
全 国	9,986	9,201	—	92.1	—	24,124	22,304	—	92.5	—
中 国	289	263	—	97.8	—	777	794	—	102.2	—
岡 山	40	42	52	105.0	123.8	110	136	166	122.5	122.1
岡 山 / 全 国	%	%	—	—	—	%	%	—	—	—
	0.4	0.5	—	—	—	0.5	0.6	—	—	—
岡 山 / 中 国	14.9	16.0	—	—	—	14.2	17.1	—	—	—

	総農家に対する飼養農家の割合			飼養農家1戸当り頭数		
	33.8	34.8	35.8	33.8	34.8	35.8
全 国	16.6	15.4	—	2.4	2.4	—
中 国	4.2	4.1	—	2.9	3.0	—
岡 山	2.3	2.4	3.0	2.8	3.6	3.2

千600頭で前年に比べ22.1%増となり、34年8月の33年8月に対するそれは全国では92.5%と僅か減少したのに、中国地方では102.2%と僅かに増え岡山県では122.5%と大きくふえている。35年8月の1万6千600頭は10年前の25年2月に比べると約3.6倍となり、飼養農家1戸当り頭数も僅かながら増加の傾向がみられる

3、にわとり

(1) 飼養農家数

昭和35年8月1日現在にわとりを飼養する農家の数は、岡山県で13万2千戸で総養農家数の76.4%に当り、これは10年前の昭和25年2月の約1.1倍で、前年34年8月の飼養農家数と比較すると102.7%と僅かながら増加しており全国の3.2%、中国地方の28.3%をしめている。

	総農家に対する飼養農家の割合			飼養農家1戸当り羽数		
	33.8	34.8	35.8	33.8	34.8	35.8
全 国	67.1	66.1	—	15.6	16.9	—
中 国	73.1	71.2	—	14.4	15.7	—
岡 山	76.2	74.6	76.4	18.3	20.1	23.3

(2) 飼養羽数

	飼 養 農 家 数					飼 養 羽 数				
	33.8	34.8	35.8	34.8 33.8	35.8 34.8	33.8	34.8	35.8	34.8 33.8	35.8 34.8
	千戸	千戸	千戸	%	%	千羽	千羽	千羽	%	%
全 国	4,011	3,981	—	99.2	—	62,423	67,435	—	108.0	—
中 国	464	452	—	97.4	—	6,676	7,093	—	106.2	—
岡 山	131	128	132	97.7	103.1	2,391	2,577	3,064	107.8	118.9
岡山/全国	%	%				%	%			
	3.3	3.2				3.8	3.8			
岡山/中国	28.2	28.3				35.8	36.3			

昭和35年8月1日現在のにわとり飼養羽数は、3,064羽となっておりこれは前年同期の118.9%であって、10年前の25年2月の約5.7倍に達し相当の増加である。また35年2月1日現在の調査結果からみれば39.1%の増加となっている。にわたりの総羽数は「ひな」の発生の相当数が春（2、3、4月）に集中するため2月（冬）から8月（夏）にかけて増加し、その後減少に転じて再び2月（冬）に推移するものと考えられるが、35年は春ひなの発生が前年に比し38.4%増であったため、35年8月の総羽数が34年8月のそれに比べ大巾の増加になったものとみられる。

更に34年8月の33年8月に対するそれは、全国では8%増、中国地方では6.2%増、岡山県は7.8%の増加となっており、本県は全国で北海道、愛知について第3位、3.8%をしめ、関西22府県中第1位で中国地方の36.3%をしめている。

このように飼養総羽数は前年同期に比し18.9%の増加をみせたにもかかわらず、飼養農家数は2.7%の増加しか示さなかったため、飼養農家の1戸当りの飼養羽数は33年8月の18.3羽、今年23.3羽と2~3羽の増加をみせている。

2月1日現在の調査によっても、昭和25年2月には1戸当り僅か4.4羽であったのが、10年後の35年2月には18.4羽と約4.2倍に達しており、これを全国的にみてもにわたりの1戸当り飼養規模は拡大の傾向が認められている。